

# 全日本高体連レフェリー選抜選考合宿

鳥取県サッカー協会ユース審判員 生田 賢太郎

- 主催：高体連
- 協賛：SFIDA
- 開催日：2025年2月7日（金）～2025年2月9日（日）
- 会場：三浦学苑グラウンド・日産フィールド子机
- 研修内容

事前研修 1/24 zoom 会議

1日目：トレーニング

日産スタジアム周辺をランニング

ミーティング

内容：「何事にも本気で取り組むこと」、「リーダーシップをとること」、「常に最悪な事態を考えてレフェリングすること」などレフェリング以外に大切な心構えについて学びました。

日頃から意識をしているつもりでしたが、改めて確認し、合宿中にこの意識を高めていくきっかけになりました。

2日目

1本目：主審 三浦学苑 VS 八千代 （◎できたこと、良かったこと ×課題点）

- ◎明確なシグナル
- ×ポジショニング
- ×最終ラインの危機管理
- ×PA内を重点的に見ること
- ×次のプレイの予測に対する動き出し
- ×全体的な試合マネジメント
- ×アフターファールの監視



感想：全体的にいつも地域でしているようなパフォーマンスができなかった課題の多い試合になりました。1試合目だったので、次の試合に向けての明確な課題や今回の研修で改善すべき点を見つけることができたことは良かったと思います。

3、4本目：副審

助言された内容：試合中の姿勢やフラッグの持ち方、走り方について詳しく教えていただいた。

感想：走りには自信がありましたが、レベルの高い選手の速い攻撃に自分のサイドステップのスピードが追い付かない場面があったので走力の強化や体力の向上、サイドステップの向上が必要だと思いました。また、最終ラインの管理がしっかりできなかったので常に最終ラインの管理を意識したレフェリングをすることが課題であることを確認することができました。

普段、主審を中心に指導していただいていたので改めて副審の動きについて学ぶことができたことは今回の研修の大きな収穫です。今後は主審だけでなく、副審もしっかり務めていきたいです。

6本目：主審

- ◎1本目の反省をいかして周囲を見ながらレフェリングできた
- ×予測の動き出し
- ×最終ラインの危機管理
- ×選手のマネジメント



感想：1本目と比べて、周囲を見て動くことや、予測して早く動き出す回数は増えたが、試合全体をみるとまだ不十分な場面がたくさんありました。この課題を最終日までに克服することを目標にします。

全体ミーティング：主審については、「初速を速くすることが大切」である。「もっと危機感を持ち、争点に近づくこと」や、「視野を広く持ってレフェリングをすること」、「スプリントに強弱をつけること」を確認しました。明日以降のレフェリングに向けて今一度これらのことを意識していこうと思いました。

さらに「ミスをしたら、次につなげる意識を持つこと」が大切であると言われました。このことからミスはミスで終わらせるのではなく、次へ向けて早く気持ちを切り替え同じミスをしないことが大切であると気づきました。レフェリーには技術だけでなく、強い精神力が必要であるということを学ぶことができました。

副審については、「残り足や肩を見てオフサイドを見極める」こと、「最終ラインを常に維持する努力をすること」を確認しました。この点については、自分の中の意識が薄かったので今一度しっかりと意識をして取り組むことが必要だと実感しました。

最終日：日本高校選抜 VS 神奈川県 U-17 主審

- ◎ファールジャッジ
- ◎明確なシグナル
- ◎視野を広く周囲を見渡すこと
- ×初速のダッシュ
- ×最終ラインの危機管理



感想：普段の地域で審判をしている時と同じ感覚でリラックスをしてレフェリングを行うことを意識して試合に臨みました。自分が担当してきた中で最もレベルの高い試合だと思ったので、これまで勉強してきたものを表現し、良い角度、距離から判定することや選手と積極的にコミュニケーションをとることを目標におきました。試合の中では、選手のレベルが高く、自分の予想外の展開や選択肢にならない展開になることが何度かありました。そのような場面では昨日までの課題であった初速のスピードが遅れてしまいました。全体的には参加させて頂く前と比較すると「予測をして動く」ことを意識する回数が増え、いつもよりも楽にレフェリングができるようになってきたと感じました。しかし、無意識の中でも予測をしながら自然に体が動くようになっていないため、より正確なジャッジを行うためには多くの経験が必要だと感じました。

## ■まとめ

2泊3日を通して、on the pitch はもとより、Off the pitch の部分も含めて指導していただき、充実した時間を過ごすことができました。また、細かい部分までレフェリングの指導をして頂き参加前よりも志を高く持つことができるようになりました。

研修期間中、1本目で見つけた課題の克服に努めましたが、最終的に克服することができなかった課題を残して終わることになったのは反省すべき点であります。「最終ラインの危機管理」や「PA内の監視」は審判として最も大切なことなので、早急に課題の克服をする必要があると感じています。今後も何事にも本気で取り組み、カテゴリーごとに強度を変えずにレフェリングをしていきます。

この度、日本高校選抜チームの主審をさせて頂き高校生トップレベルのプレイを体感することができたのは今後のレフェリー人生において非常に貴重な体験になりました。まずは、このようなレベルの高い合宿に参加させ



て下さったこと、日本高校選抜チームの主審を務めさせて下さったことに対して心より感謝いたします。

貴重な体験から多くの課題を見出すことができ自分自身の実力不足を実感した合宿でした。しかし、多くの課題を克服することで自分自身のレフェリングが更に向上することがわかったので、本日以降課題の克服に向けて意識しながらレフェリングをしていきます。それぞれの選手が自分らしいプレイができたり、気持ちよく思い切ったプレイができるようなマネジメントを心掛け、選手だけでなく監督や観客も満足できる試合にしていけるよう技術向上に向けて取り組んでいきたいと思えます。合宿終了後も「何事にも本気で」「常に最悪の事態を想定して行動」していくことを継続していきます。「ミスをしたら次に繋げる意識を持つ」という言葉をミーティングで言われたことが心に残っています。ミスで終わらせることなく、次に繋げる前向きな意識を持つことやミスを恐れずチャレンジする気持ちを持つことは、何事に対しても必要です。レフェリングと日常生活での意識が深く関係していることを学びました。学び多い充実した研修会の機会を与えて頂きありがとうございました。学んだことを中国地区や鳥取県に持ち帰り、地域での活動に活かしていきます。

最後に今回の合宿参加に際し、協力・指導して下さいました高体連サッカー専門部の皆様、鳥取県高体連サッカー専門部の先生方、インストラクターの方々、中国地区の審判員の皆様、鳥取県サッカー協会の皆様に心より感謝を申し上げます。

# 「全日本高体連レフェリー選抜選考合宿」 報告

島根県サッカー協会ユース審判員

小早川 稀

【日程】 2025年1月25日（土）～28日（火）（3泊4日）

【場所】 時之栖スポーツセンター時之栖グラウンド、  
時之栖スポーツセンター裾野グラウンド

【活動・研修内容】 ・合宿前 1度のZoomでの研修（1/15）  
・日本高校選抜、U-17と大学との試合での活動

## 【担当試合・研修内容詳細】

### 1. 1月15日での事前研修

○主な内容 スローガンの確認、3つのターゲットの確認、研修までの課題の提示  
スローガン「Raise Your Awareness ～すべての事象に先回れ～」

ターゲット 01. Express Your Leadership

02 From the Best, To the Best

03 Behave as an Elite Referee

課題 自己紹介 A3 プリント（My Mission、呼び名、自分の情報）  
英語プレゼン（お題：My 推し、時間：3分、スライド等）

### 2. 1月25日（土）トレーニング→U18紅白戦の審判（R:8分、AR:12分）

○良かったこと

・危険を察知しポジショニングを細かく変えることができた

○悪かったこと

・全体を通して中央付近にポジショニングをとることが多く、選手の出したいパスコースを消したり、選手の動きを妨げたりしてしまった

・サイドラインと垂直にポジショニングをとることができず、オフサイドの判定が全く合っていなかった（プラティカルも含めて）

○一番の収穫

・大学生とのTMの前に高校選抜のプレースピードや強度に触れられた

○次の日の目標(1/26)

・何を、どこで、何のために、その動きをしているのかを明確にする  
→思考と行動の連結

3. 1月25日(土)夜の研修
- 主な内容 紅白戦の試合映像ディスカッション(俵 元希先生)  
JFA 事業について(名木 利幸さん)
4. 1月26日(日)高校選抜 vs 駒澤大、U-17vs 駒澤大(R:30×2、AR:30×2)
- 良かったこと
    - ・(プラティカル等で)オフサイドの判定が見極められるようになった
    - ・ファウルの基準を揃え、適切なジャッジができた(カード等)
  - 悪かったこと
    - ・側から見て注意しているように見えない  
→プレーを止めてでも選手を止まらせて注意をすることも必要
    - ・スピードアップをするタイミングが悪く、プレーに振られていた
    - ・首が振れておらずその時その時のポジショニングが最悪である  
→首を振ること、視野の確保の仕方を変える、体の向き等
  - 一番の収穫
    - ・U17の紅白戦での(日比 健人先生による)シャドーイングによって、首を振るタイミング、状況に合わせた深さ、スピードアップの段階の使い分けについて知れた
  - 次の日の目標(1/27)
    - ・首を振り、多くの情報を入れ、試合にマッチしたポジションをとる(個人)  
→スタートポジション(良)→プレーに遅れることなくついていける
    - ・3回以上、選手とコミュニケーションをとる(全体)
5. 1月26日(日)夜の研修
- 主な内容 Presentation in English(福島 崇先生)  
TMの試合映像ディスカッション(俵 元希先生)  
JFA 事業について(名木 利幸さん)
  - ☆TMの試合映像ディスカッション 研修を受けて学んだこと
    - ・22人のこどもたち(選手)の安心・安全を守るのが親(Referee)の役割
6. 1月27日(月)高校選抜 vs 東京国際大、U-17vs 東京国際大(R:30、AR:30×3)
- 良かったこと
    - ・選手とのコミュニケーションを通して、自分の判定基準等について意見を受けることができ自己理解を深められた
    - ・選手の攻撃のベクトルをかわすように選手の後ろに隠れられた(無意識)

○悪かったこと

- ・自分の判定に対して、細かく理由を説明できるほど事象について理解できていなかった  
→いつ選手、チームスタッフ、監督に聞かれても理由が説明できるような心構えと事象の理解を深める

○一番の収穫

- ・U17の紅白戦での（西村 雄一さんによる）シャドーイングによって、視野の確保の仕方（90度を意識する）、外に逃げるタイミングと意図、攻撃側の選手のベクトルを回避するための隠れ方などについて知れた

○次の日の目標（1/28）

- ・首を振り、適切なポジショニングをとる
- ・意識的に攻撃側の選手のベクトルを回避するようにする

7. 1月27日（月）夜の研修

○主な内容 みんなのベストプレー集（俵 元希先生）

3日間で変わったことディスカッション（俵 元希先生）

Leadershipを発揮するとは（RESPECT）（西村 雄一さん）

☆Leadershipを発揮するとは（RESPECT） 研修を受けて学んだこと

- ・RESPECT＝選手同士がするものではなくレフェリーが選手やチームスタッフを「RESPECT」するから自分に返ってくる
- ・ミスをするならチャレンジしたミスに  
→同じことは繰り返さないように
- ・「どのようにすればみんなの幸せを実現できるのか」  
→自分に問い続ける
- ・審判の味方＝「フィールドを共に駆ける選手たち」

8. 1月28日（火）高校選抜 vs U-17（R:25、AR:25）

○良かったこと

- ・ボールの位置にあったステップ、体の向きでオフサイドラインやボールを監視することができた
- ・意識的に攻撃側の選手のベクトルを回避するために隠れることができた

○悪かったこと

- ・オフサイドラインに集中し過ぎてしまうと体勢が低くなり、前傾姿勢となり、姿勢が悪く見えている
- ・ボールには最後までついていきタッチジャッチをする

- ・ 攻撃側の選手のベクトルを回避しようとするがあまり、試合とはマッチせず  
に自分の意思のみで動いているように見えた

→動きの優先順位

①ゲームにあった動き出し

②次のパスコースとならないところを認知しておく

(逃げる場所を見つけておく＝いるポジションに保険をかけておく)

- ・ 選手の心の声を読み取ることができずマネジメントがうまくできなかった  
→選手の気持ちを理解し、代弁することで選手の合意を誘導する

#### 【この4日間で見つかったこれからの課題】

- ・ 試合中のみならず試合前から選手、チームスタッフ、監督とコミュニケーションを  
とり、試合の雰囲気を作りに行く
- ・ 試合にマッチしたポジショニングを優先して取りながら、そこがベストポジション  
じゃなくなった時に逃げられるような場所を常に探しておく
- ・ 自分のスピードをボール状況、スペースに応じて段階的に使えるようにする
- ・ 選手の気持ちを汲んだマネジメントを行い、さらにクリーンで選手が試合に集中で  
きるような試合をつくる

#### 【この4日間での成長】

- ・ オフサイドの判定に自信を持つことができた
- ・ 周辺視野を広げ一度に多くの情報を視界に入れ、認知することができた
- ・ ボールに当たらないようにするためにはボールが絶対にこない位置にいればいい  
→ボールを見ていなくても良い＝他のところを見てもっと多くの情報を認知できる
- ・ Leadership とは何なのかという本質について自己理解をすることができた
- ・ スプリントを入れるタイミングが明確になりかつ段階的に使うことができた



## 【まとめ】

この度は多くの募集があった中から私を選んでいただき、全日本高体連レフェリー選抜選考合宿に参加させていただき本当にありがとうございました。

自分にとってここまでハイレベルな試合を担当することは初めてで、自分のレフェリングが遅れを取らないか不安もありましたが、毎日プラティカルで行っていたオフサイドトレーニングで自信を持てたことをきっかけに、毎試合、新たなことにチャレンジする場として試合を活用することができ、成長した自分にワクワクしながら試合を担当することができました。

初日の高校選抜の紅白戦ではパススピード、フィジカルなど色々な面からレベルの高さを実感し、選手たちの熱量に応えなければという思いが先走るばかりで、自分がしなければいけないことがわからなくなっていました。ですが指導者の方々の的確なご指導、紅白戦を使った2度のシャドーイングもあり、日を追うごとにやることが明確化し少しずつ成長していることを実感できました。

5人のユース審判員とは初日こそ会話が少なかつたものの、自己紹介、一緒に試合を担当したり、夜の研修でディスカッションをしたりしていくうちに自然と解け、お互いが最終日を目指すライバルであり、高め合える仲間であるということに気づくことができました。

2級でありながら、未熟な私をどんな時でも丁寧に時に厳しくご指導いただきましたことに感謝致します。

今合宿、参加するにあたり携わっていただいた全国高体連、合宿関係者、指導スタッフ、ユース審判員、中国FA、島根FAの皆様には感謝致します。本当に貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。